

学校便り



未来への道を切り拓く力

乱文御免

我慢すること

1年生の学年通信に、我慢をすることについて書かれてありました。「学校は家ではない、自分の思ったようには行動できない。」「学校は社会に出るための準備期間、自分の思いをおさえて行動する事も必要。そのためは、「自分は相手にとってどのように見られているか?自分の行動は相手の立場に立って行動しているか?」を考える事が重要。



まわりの事を見る、まわりの人のこと考えることは、みなさんが生きていく変化の激しい予想困難な時代「未来への道を切り拓いていく力」を身につける上で役に立つことかもしれません。

むかしばなしです。「わらしべ長者」

むかし、ある無一文の男が歩いていると道にわらが落ちていて、何気なくそれを拾って、目の前を飛んでいたアブをつかまえて縛り付けました。アブはわらに縛られたままブンブン飛びます。それを見た男の子がそのわらに縛られたアブが欲しいと言われ、男の子のお母さんの持っていたみかんと交換しました。

これはまさに道に落ちていた無用のもの、それだけでは価値のないものと目の前に飛んでいるアブを組み合わせることによって、男の子にとって大変魅力的なものに変化させた。何も無いところから価値あるものをつくりだす創造性は今の時代に必要な力です。さらに

自分以外の人の見方を考えられたら、自分自身の思考の幅をひろげます。(多様性と言います。)

使わないものをもう一度利用することは資源を無駄にしないSDGSの考え方にも合致しています。見事に男は、道に落ちていた無用のものから新しいものを生み出し、ミカンという価値あるものを手に入れました。

みかんを持って歩いていると木陰で女の人が倒れていました。暑さでのが乾いて倒れたとのこと、喉の乾いていない男は持っていたみかんを女の人にあげました。みかんを食べた女の方は元気になり持っていた立派な反物(着物)を男にくれました。

※これは物流のことを勉強できます。今持っているものを、もっと必要な人のところに届ける。そうすることでものの価値は大きく変わります。メルカリやリユースショップなどは周りの人に今は何が必要で、自分がどのように動くかで自分も、周りも幸せになります。周りのことを考える力のある人にこのようなチャンスやアイデアが生まれてくるのかもしれない。

反物を手に入れてさらに歩いていると、馬が倒れて動かなくなり、それに鞭を打って動かそうとしている馬主がいました、かわいそうに思った男は持っていた反物を全て馬主に渡し、動かない馬を手に入れました。手に入れた馬をよくみると足の裏に大きな棘が刺さっていてそれを抜いてやると馬は元気に歩き出しました。男は道に落ちていたわらとあぶから立派な馬を手に入れたのです。

※動かない馬はあまり価値はありません、交換を考えるとときには大きなリスクがあります。しかし動くようになると大変な価値に変わります、何より鞭で打たれる馬はかわいそうです。ここでハイリスクな決断力と優しい気持ち(情)が学べます。

常に周りを見る目、気配り、自分の損得ばかりを考えないこと、優しい気持ち、そんな人にビックチャンスは訪れるのかもしれない。

元気な馬を手に入れた男は、もう住まなくなる大きな屋敷を持つ人とその馬を交換し長者になりました。

このお話で大切なことは、どの交換も自分にとってより良いものを得るだけではなく、相手にとってもより良いものを得ることができました。その結果全ての交換がうまくいき、全ての人が幸せになったのです。

(かじいあつし著「昔話の戦略思考」参)

緊急事態宣言が延長されました。本来であれば1年生は野外活動 3年生は修学旅行 2年生はトライヤと行事が目前。部活動は、総体前で最も練習が激化する時期です。思うように普通の毎日を送れませんね。池江璃花子さんの先日のオリンピック選手と辞退してのツイートに対してのコメントに「これだ!!」とコメント → (オリンピックの中止の声が多いことは仕方がなく、当然のことだと思っています。私も、他の選手も

きっとオリンピックがあってもなくても、決まったことは受け入れ、やるならもちろん全力で、ないなら次に向けて、頑張るだけだと思っています。)

「え、と彼女は自分だけのことを考えて競技しているのではないと思います。この前何かに感動 最近グッチャクは自分「自分」に大反省」みんなは明日からの中間テストがんばれ! 制限だらけの部活動も、やることもやるだけです!!

校長 谷本 耕三